

Vol.110

院長 関の

Face to Face

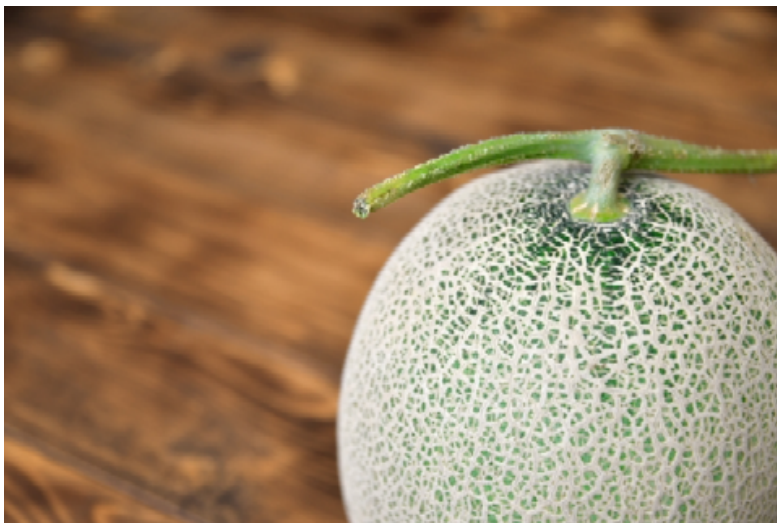
2017年 8月 1日発行



十年前の平成19年に財政破綻して医療費の大幅な縮小を迫られた夕張市ですが、その後はどのようなようになったのでしょうか。市内唯一の総合病院は今では19床に縮小、市内に救急病院はなくなり、人工透析もできなくなり、CT、MRIなどもなくなりました。しかも高齢化率は45%で日本ナンバーワンとなり、医療難民が続出すると予想されまし

その後の「夕張市」

た。ところがです。夕張市は日本人の死因の多くを占める癌、心臓病、肺炎の死亡率が全て下がりました。しかし、老衰……つまり自然死の死亡率は上がっています。以前は1%で今は14%です。また診療費は全国平均より一人あたり10万円も下がったそうです。この現実を夕張市立診療所の院長を務められた森田洋之氏が次のように述べています。



病院があるから健康なのではない。自分でできることは自分でやるといふ予防意識が健康を保つ秘訣である。

自分の身体は自分のもの。自らが主体性を持ち、意識を変えることで、全国どこであつても病院になるべく世話にならない方法を工夫することはできるのです。今は情報化社会。個人差があるにせよ、あと5年で自分がどんな感じになつていくかもわかります。保険が効くからと安易に考えず、まずはなる前に手を打つことを考えてみましょう。

関 修一(せきしゅういち)

健育会 東銀座整骨院・整体院・

鍼灸院 院長

代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの「face to face」は、患者さん自身と向き合つて患者さんの症状と闘うことを願つてつけた

毎月一日の発行です